

## 会員の広場

### 言葉は 感情を伴って

塩津地区 吉井謙之輔

私の妻は、もう亡くなりましたが、年上でしました。一つや二つではありませんでしたから、非常に気にしていました。だから私には禁句のひとつが「このくそババア」でした。どんな大喧嘩をしても、またいくら冗談でもこれだけは口にしませんでした。それともうひとつ「出て行け！」です。彼女には帰るところがもうなかったからです。夫婦喧嘩が頂点に達すると、私の方から「出て行く！」となるのです。靴をはいていると襟首をつかんで引き戻されました。

このことは愛しき妻に対して正解だったよう思います。何故かといえば、話しているときは相手がどのような人物かをよく知っているければならないのが原則だからです。その上で何をいってはいけないかをわきまえていることだからです。

しかし、禁句はどんなにアクセントや感情を変えてみても効果は同じではないでしょうか。その点他の言葉はちがってきます。「このバカ！」といつても笑いながら言えば冗談半分になりますが、怒った顔でいえば相手を威圧することになります。だから会話というものは、相手の表情やら振りが入るので面白いし、真意が伝わるのだと思います。

だけどパソコンやらケイタイなどで会話しているとそうはいきません。文に表れた意味だけしか相手に伝わりません。その弊害が最近出てきたように思います。自殺・殺人がパソコンやケイタイの会話の元になっているのがそれです。

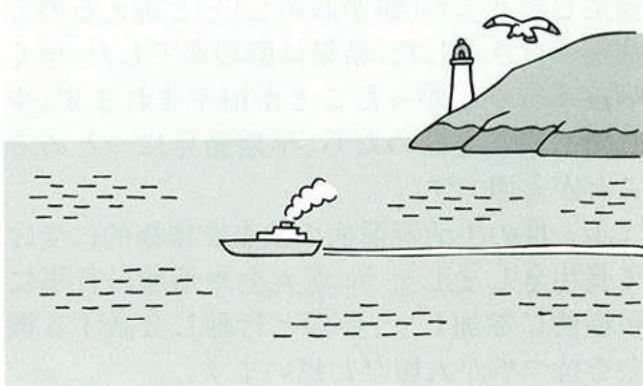
われわれ年輩者は若者に負けてならじと思いますが、今不自由でなければ、パソコンやケイタイを使うのは、文を書くことや、なにか探すくらいでよいのではないかでしょうか。凝るところくなことはありません。

もっと楽しく。

### 文化財めぐり に参加

西浦地区 壁谷勝志

至る九月二十日、高齢者教室に参加させて頂き有難うございました。役員の方と一緒に西浦公民館を九時に出発し、曇り空の中、バスにのり揺られながら一路常滑市へと走りました。碧南、半田、阿久比方面へとバスの中から遠くの風景を見ながら陶磁器会館前に到着。焼き物の散歩道を出発点として、案内係にしたがって焼き物散歩道を歩くことになりました。約一・五km。散歩道は江戸時代以来からも狭く曲がった町並みで迷路のようで至る所に壺場や、焼瓦造り、煙突や土管、焼酎瓶がつまれた風景などがあちらこちら並んでいて、一軒一軒説明を頂きながら散策を楽しみ元の場所に帰りました。そして一休みしてから、十一時五十分頃、次の目的地の常滑焼き卸団地「セラモール」へ出発致しました。そこで皆様方と一緒に楽しい昼食をとりました。食事をすませ、知多半島随一の規模の品揃えを誇るショッピングゾーンに入りました。ショッピングを巡り、卸団地直送を巡り終えて、一路中部国際空港へ向かい、十三時四十分頃空港に到着。みなさんと共に右左見物しながら歩き、貨物機・旅客機を見ながら身近で離陸、着陸する姿を目の前で見る事が出来てとてもすばらしい思い出になりました。時間と共に集合場所に戻り、十五時十分空港をあとにし家路に帰りました。



もっと生き生き。